

家畜衛生だより

令和2年9月号

紀北家畜保健衛生所

電話 073-462-0500

紀南家畜保健衛生所

電話 0739-47-0974

紀南家畜保健衛生所 東牟婁支所

電話 0735-58-1481

健康で骨格の大きな良い和牛子牛を作るために

第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会第8区（去勢・肥育牛）出品候補牛の誕生時期が近づいてきました。この機会に改めて子牛の飼養管理について見直し、肥育素牛として飼い直しの必要がなく、もの食いの良い子牛を生産しましょう。

① 哺乳期（0～60日齢）

- 出生時の初乳給与を忘れずに。初乳の吸収効率が最も高いのは生後3～6時間です。生後12時間で初乳免疫の効率はかなり低下します。
- 駆虫や温度管理も大事です。清潔な水の給与や寒い時期の毛布等、下痢や貧血をおこさないように管理してあげてください。
- この時期は主に母乳ないし代用乳を摂取していますが、人工乳（スターター）も遊び食い（一日30g程度）から徐々に採食させ慣らしします。餌の増量は30日齢で100g/日程度からスタートし、1週間で200g/日程度を目安に無理なく徐々に増量します（次のページに飼料給与例を記載しています）。

② 離乳～飼料切り替え期（61～120日齢）

- 61～90日齢では、下痢をさせない程度に濃厚飼料を採食させ、骨を育てます。乾草も短く切って（5～10cm）、少しずつ増量すると第一胃の成長を促し、育成期へのつながりがよくなります。
- 91～120日齢では、母子分離により授乳を一日一回に制限します。この時、ヘラ型鼻環などを使用することによって離乳が容易になります。またそれと並行して、餌食いの状態を見ながら育成用の飼料への切り替えを行います。はじめのころは育成用の餌の上に乾草をふりかけるなどし、2週間程度かけ徐々に慣らしていくと良いでしょう。120日齢には育成飼料を雄3kg、雌2.5kg食べていることが理想です。

③ 育成期（121日齢～）

・ここからの時期は濃厚飼料の増量を控え、粗飼料を増やします。この時期に粗飼料を食い込む事によって第一胃がしっかりと育ちます。第一胃がしっかりと張って（肋張りがよく）過肥でない牛は、飼い直しの手間がかからず餌食いもよいので、よい肥育素牛となります。鹿児島全共8区出品牛の条件である24ヶ月齢未満で枝肉重量500kg以上を得られる牛は、鹿児島県による研究報告より生時体重35kgとして逆算すると、7カ月齢時の体重262.4kg、体高112.4cm、胸囲121.0cm、腹囲144.2cm以上です。一つの指標としてみてはいかがでしょうか。

○飼料給与例（餌の単位はkg/日）

月齢	生時		1		2		3		4	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
人工乳	0.1	0.1	0.3	0.3	1.0	1.0	2.0	1.0	1.5	1.0
育成用	-	-	-	-	-	-	-	-	1.5	1.5
乾草	0.1	0.1	0.1	0.1	0.4	0.4	1.0	1.0	1.5	1.5

月齢	5		6		7		8		9	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
育成用	3.0	2.5	3.5	3.0	4.0	3.0	4.0	3.5	4.0	3.5
乾草	3.0	2.5	3.5	3.5	4.0	3.5	4.0	4.0	4.5	4.0
稲わら	-	-	-	-	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5



この飼料給与例は目安です。この表の給与量で余裕がありそうでしたら、食べさせ過ぎに留意しながら給与量を増やしましょう。また、この表に追いつかない場合も、無理に食べさせすぎず、下痢をさせない程度にしましょう。※衛生プログラムも順守しましょう。

気になることや不明な点がありましたら、
所轄の家畜保健衛生所にお問い合わせください。